

		現在の取組及び状況		今後の改善計画・目標
			判定	
保育内容				
全体的な計画の作成				
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、保育の方針や目標に基づいて作成している。	A	子どもを取り巻く家庭環境や背景などを職員全員で深く把握していく。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	「食べる」「遊ぶ」「眠る」の目的に合わせた環境設定をしている。	A	次年度は子どもの人数が増えるので、安全に保育するため朝の受け入れ方法を検討している。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	定期的に行われる保育会議の中で、子どもの状態を伝え合い、職員の中で共通理解している。	A	全職員が全園児のことを把握し、子どもたちひとりひとりに合わせた保育を提供していく。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	基本的な生活習慣を確実に身に付けさせるため、時には個別に対応をしている。	A	子どもたちが朝の支度など視覚で覚えていけるよう工夫していく。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	子どもが自主的にやりたい遊びを好きなだけできる環境を常に整えている。	A	子どもたち発信の遊びが更に展開していけるよう保育士側からも工夫した声掛けをしていく。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	スキンシップを大切にし、愛着関係を育む関わりを大切にしている。子どもが安心して過ごせることを第一に考えている。	A	今後も引き続き、信頼関係を築くことを大切に、1対1での絵本の読み聞かせや抱っこをして愛着を育てていく。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	「自分でやりたい」の気持ちを尊重して接していく。まだ言葉がスムーズに出ない子もいるので表情も注意深く見て気付けるようにしていく	A	基本的な生活習慣を身に付け、大人との愛着関係を築く土台となる生活を送れるようにする。
7	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	今年度は5歳児はいないが、3歳児と4歳児が1つの行事を作り上げたり、日々の保育の中で関わったりして刺激を受け合っている。	A	次年度は初めて0～5歳児が揃い、以上児も今以上に刺激を受け合うことを期待したい。
8	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	困り感を理解し、穏やかに安心して過ごせるように接している。	B	障害児保育を更に学び、もう少し対応の幅を広めたい。
9	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子どもの人数が少ない時間帯は寂しさを感じないよう心が落ち着くような声掛けをしている。	B	子どもの人数に対して少し部屋が狭く感じることもあるので、対応を検討していく。
10	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	今年度は年長児がいなかったため、小学校との連携はなかった。	B	次年度は初めての卒園児を送り出すため、小学校と細かく連携をとり、「10の姿」を意識して保育していく。
健康管理				
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	毎日検温をし、更に健康観察カードで健康状態を把握している。	A	成長曲線を作成し、個人の成長の伸びを毎月確認し、気になる点は全職員で情報交換していく。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	内科検診、歯科健診は年に2回ずつ行っている。	B	結果は当日中に保護者の方にお知らせし、虫歯は歯科で治療をするようお願いしている。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	現在は食品アレルギー疾患がある子どもはいないが、常にアレルギー対策を全職員で共有していく。	A	食品アレルギー疾患がある子に対しては除去食を提供し、食器も完全に分けた上で慎重に提供していく。
食事				
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	「おいしいね」「たくさん食べれたね」など楽しい雰囲気作りを意識した声掛けをしている。	A	食べることを好きになってもらえるようクッキングなど更に充実した食育計画をしていく。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	行事食や毎月の誕生会特別メニュー、コリンメニューを用意して楽しさが持てるようにする。	A	今後も楽しく食事できるよう子どもたちにニューのリクエストをとるなどして工夫していく。
子育て支援				
家庭との緊密な連携				
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	毎日、連絡ノートや口頭で子どもの様子を伝え合っている。	A	今後もエピソードなども交えて、保護者の方により安心して頂けるように様子を伝えていく。
保護者等の支援				
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	困った時だけでなく、普段から積極的に声を掛け、コミュニケーションをとっている。	A	今以上に保護者の方からも話しかけやすい雰囲気作りを意識していきたい。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	毎日の着替えの時はもちろん、夏場のシャワーを浴びる時、プール遊びの時には全身をチェックしている。	A	保護者の様子や子どもの仕草など、ちょっとしたことも気にかけて、常にアンテナを張っている状態にしていたい。
保育の質の向上				
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	コロナのこともあり、なかなか研修に出向くことが難しかった。月に2回、保育会議を開き、各クラスの保育の様子を伝え合っている。	B	感染症に気を付けながら、いろいろな研修に出向き、更に保育士としてのキャリアアップを目指したい。